

# Update the Value Standard

早川浩士  
(有) ハヤカワプランニング  
代表取締役

## 市中感染の蔓延

新型コロナウイルス感染症の拡大は、目を覆うばかりだ。

8月11日、世界の感染者数累計が2000万人を突破した。初めての確認から1000万人を超えた6月28日までは半年以上を要したが、わずか1カ月

半で倍増したのである(※1)。

わが国は、1月16日に厚生労働省が国内で初の感染者を確認したと公表。94日後の4月19日に累計数が1万人を超え、さらに81日後の7月9日に2万人を超え、27日後の8月5日には4万人超と倍増。さらに8日後の13日には5万人を突破した(8月25日現在

6万2364人 ※2)。

翌14日、当局から沖縄県では爆発的な感染拡大が起きている水準「ステージ4」に全6項目が当てはまったこと、東京都、大阪府、愛知県なども感染が急増している水準「ステージ3」に該当しているなどが公表された。

7月以降、全国各地でクラスターの発生による集団感染の発生が広がるとともに感染者との接触が確認できず感染経路不明なケースが増え続け、通常の生活を送る状態で成立する市中感染の蔓延を疑わざるを得ない。医療・介護を含めたエッセンシャル・ワーカーの崩壊を防ぐためにも、新しい生活様式<sup>①</sup>の実践<sup>②</sup>

## 感染者が出たとしても

### サービスの提供を維持するには

### どうすべきか

#### Profile

はやかわひろし ● 経営コンサルタント。「継業と人材創造塾」主宰。『介護ビジョン』編集委員。介護福祉教育マスター。著書に『データで徹底分析介護事業の最新動向と経営展望』、『99の言葉の杖』(いずれも日本医療企画)、『介護保険改正に勝つ! 経営』(年友企画)など。本誌にて『経営(継業)のツボ』を創刊から200回(16年8カ月)連載

URL [www.hayakawa-planning.com](http://www.hayakawa-planning.com)

例のさらなる徹底を促したい。

## エッセンシャル・ワーカーの存在

コロナ禍で発令された緊急事態宣言により、人々が日常生活を営む上で欠かせない生活インフラや社会インフラの維持を担って仕事をする人たち、いわゆるエッセンシャル・ワーカー(「必要不可欠

(essential)な「働く人(worker)」の存在と認識を新たにした人は少なくない。

たとえば、医師、看護師、介護職などの医療・介護従事者、スーパー、コンビニ、ドラッグストアなどの店員、宅配・デリバリーなどの配達員や郵便局員、鉄道、電気、ガス、水道、通信などのイン

フラを支える人、警察官、消防員、公務員など治安や安全、行政サービスの関わる人たちである。彼らは感染リスクがあろうと、今も現場に向かっている。リモートワークの難しい仕事だ。

感染すると重症化する高齢者を抱える介護施設は、集団感染へと広がりやすさが危惧される。

感染予防の教育や対策に万全を講ずるだけでなく、感染者が出たとしてもサービスの提供を維持するにはどうすべきか。

人手不足と感染症への不安のなかで事業所の苦悩は尽きないものの、利用者とその家族を支える必要不可欠な存在であるとの意識の涵養を怠ってはならない。

※1 感染者数は、アメリカのジョンズ・ホプキンス大学の集計による

※2 8月25日現在。新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について(空港検疫、チャーター便帰国者を除く) [www.mhlw.go.jp/stf/houdou/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/index.html)